

PRO'S Products

JULY



都市生活者の静かな主張 大人の趣味の良さが光る充電式バイク
[Voloci]

メーカー Nova Cruz社

URL www.voloci.com/voloci/default.asp

なぜか日本ではモーターバイクと騒音は切り離せないイメージセットである。内燃機関にまたがって爆音とともにスピードの世界へ……というのはいかにもそれらしいが、昨今の交通事情や都市周辺の住環境では、単にはた迷惑なノスタルジーに過ぎない。そう考えると米国のNova Cruz社が販売しているVolociはいかにも未来的。これは、内燃機ではなく電池式のモーターを使った、まったく静かなモーターバイクだからだ。この充電式バイク。充電時間は2～3時間。ギアなし、日本の電動アシスト自転車みたいなペダリング不要、スルスルっと加速し、時速30キロに到達するまでの時間が5秒、トップスピードは時速45キロ。最高航続距離は80キロ程度だが、往復16キロ程度の外出であればパーフェクトな乗り物というのが謳い文句である。鉛蓄電池式は1995ドル、ニッケル水素電池式は2495ドルというから安くはない。だが、都市生活者が趣味の良さをそれとなくアピールするにはうってつけのクルージングギアだろう。 (今泉 洋 / 武蔵野美術大学デザイン情報学科教授)



練習嫌いのあなたに なんちゃってギタリスト [EZ-EG]

メーカー ヤマハ

URL www.music-eclub.com/ez-eg/ez-eg.php3

楽器をマスターしたいけどあまり苦勞したくない。かといって全自動じゃつまらないのでちょっとは演奏に加担したい。というようなわがままな要求にも応えるエレクトロニック・ギター。シーケンサーを内蔵していて、モードによっては、右手だけあるいは左手だけの演奏も可能だ。この機能は手取り早く演奏を楽しみたい人はもちろんのこと、練習用にも使える。当然MIDI入出力を備えているので、ギター型のMIDIコントローラーとしても機能する。税別24,800円という価格帯から察するに、これは「おもしろ楽器」の部類に属するのだろうけど、なかなか本格的に作りこまれており、フレットに光センサーを配したり、ピッキング部はワイアーを使っていたりと、操作感にはさまざまな趣向が凝らしてある。そのうちハイエンド・モデルも登場するのではないかと期待してしまう。 (クワクポリョウタ / デバイスアーティスト)

photo : Murayama Sinori



ケイタイの新しいスタンダードになれるか? 若い男がターゲット [HIPTOP]

メーカー Danger Inc.

URL www.danger.com/products.php

最近業界の注目を集めているパロアートの新興企業、Danger社。創業者がアップル、WebTV、そしてフィリップスに在籍していたという経歴からも想像がつくように、スタイリッシュな携帯情報端末を開発しようというのが同社の狙い。その第一弾が、この冬のCESで発表されて注目を浴びた「HIPTOP」だ。モノクロ16階調の240×160LCDディスプレイをスライドするとお馴染みQWERTYキーボードが出てくる。文字入力はケイタイ流というが、両手の親指だが、不器用なアメリカ人にも便利なので、いぶしゅホイールが用意されている。主な機能は、ケイタイ電話、ウェブブラウザー、チャット、電子メール、アドレス帳、ToDoリスト、カレンダー、デジタルカメラ(オプション)、ハンズフリーフォン用ヘッドセット.....などなど。音声とインターネット、テキストメッセージング機能を持ち、オンラインによるソフトのアップデートサービス込み、価格は200ドル程度というから、どれだけスマート&パワフルなマシンになるか、目がはなせない。ただし「18歳から34歳までのヤングアダルトマーケットを対象」と言うように、どちらかと言うとオトコの子向き。オンナの子がリードする日本製ケイタイとの勝負も見物? (今泉 洋)

PRO'S Products

JULY



指先から広がる「触れる情報」の世界
知覚の新領域を開く

[タンジブル(触知誘導)マウス]

メーカー 富士ゼロックス

URL www.fujixerox.co.jp/tangible_mouse/index1.html

いまだにワンボタンを貫く頑固派がいる一方で、ツーボタンやホイール付きが主流になってきたマウスの世界だが、ここにきて「触知誘導ボタン付き」とも呼べるような新種が登場して話題になっている。富士ゼロックスの開発したこのマウスは人差し指ポジション、つまりホイール部分に二次元的リニアアクチュエーター(指先を二次元的に誘導駆動する装置)を使った触覚呈示部が付いているマウスだ。画面上で触覚を組み込んだコンテンツにマウスが接触すると、アクチュエーターが指先の応力として伝え、ユーザーは画像だけではなかなか実感できない複雑な曲面の凹凸感や素材表面の質感を微妙な振動やうねり動作で擬似的に感じたり、またバネの弾力感やボールの重量感を感じ取ったりすることができるという。たかが指先のボタンくらいのおおげさな、と言ふなかれ。ほんのわずかな刺激であっても他の感覚との相乗効果で生み出される統合的知覚の影響力は大きい。まさに新しい世界が指先から広がっていくのである。(今泉 洋)

photo: Hiroji Kazuo



ネットワーク時代にもやっぱり距離は大問題
対人近接学からコラボレーションを考えた
[momotaro]

メーカー イトーキ

URL www.itoki.co.jp/momotaro/main.html

momotaroは変幻自在なデスク・コンストラクションキット.....というよりも、ワークスペースを「プロクセミクス(= proxemics)」理論と「モジュール」という考え方でとらえなおした空間装置だ。プロクセミクスとは「対人近接学」。簡単に言えば、私たちは他人と行動するとき、その親しさ、モードに応じて適切な距離を設定し、快適な空間を保とうとする。この文化的な距離の問題を扱うのがプロクセミクスだ。momotaroが目したのは創造的な行動における距離の問題。「視点を換え、視野を広げることが創造活動の原点」との考えから、1600ミリという最小モジュールの中で、コミュニケーションの関係とワークモードの切り替えを瞬時に行うため、左右30度のターンを可能にするデスクを作り出したという。いつの間から満員電車という異常な近接距離を延々と日常的に経験し続けている、異常な近接距離文化をもつ日本からこういうアイデアが出てくるのは、何か不思議で皮肉な運命を感じざるを得ない。

(今泉 洋)



Palmのお供に腕時計
究極のPalm コンパニオン
[FOSSIL Wrist PDA]

メーカー Fossil, Inc.

URL www.fossil.com/PDA/Default.asp?fsflashinst=true&fsflashver=5

ガジェットの定番、腕時計型PDAである。とは言っても、当然、この本体そのものを相手にデータの入力をやろう、なんてことを考えるわけがない。最近のこの手のアイテムのお約束は、メインマシンつまりPalm系PDAとのリンク機能。このWrist PDAでも190KBのメモリーを搭載、アドレス、予定表、ToDo、メモパッドの4つの情報をPalm系の機種から転送して表示できるといった具合。セールストーク風に言うなら「究極のPalmコンパニオン」つまりPalmコバンザメ的プロダクトなのだ。だとしても、このブルーーツーやRFIDタグ時代に、通信が相変わらずIRだけだというのは辛くない？ まあ、150ドルという価格を考えるとナットクできなくもないが、.....。それはともかく英文の発表を読んでいたら、その昔、ザウルスユーザーのサラリーマン間で流行った「ユーザー相互の名刺交換」という機能の説明がさもうれしそうに書かれていて笑ってしまった。歴史は繰り返すのか？

(今泉 洋)

PRO'S Products

JULY



収まりごちと裏表のない使いやすさ
[Flipper]

メーカー 日本電気

URL www.nec-design.co.jp/cebit/

携帯ウェブブラウザのコンセプトモデル。携帯端末はその小ささもさることながら、片手で操作できることが重要であるというコンセプトのもとに、極力シンプルなインターフェイスで構成されている。表裏両面から操作できるトラックボール、画面上のメニューと連動するジョグダイヤルによって使いやすさを実現しており、左右どちらの手で持っても、縦向き・横向きでも使用できる。モバイル製品を見ると、ついつい可搬性ばかりに気を取られがちだが、使いやすさに目を転じてみると、手に収まったときの手応えとある程度の大きさがあった方が良いのかもしれない。(クワクポリョウタ)



「やはり本は見開きで」という人に CG 液晶を使った
[電子ブック]

メーカー シャープ
URL www.sharp.co.jp

情報機器の中では、テキストは多くの場合「巻き物」として表示される。テキストエディターや携帯電話のメーラーなどがそうだ。そこでは文章はひとつながりの空間の中に流し込まれている。一方、クラシックな「本」という媒体においては、文章は各ページに区切られ、矩形の中に配置されている。辞書やリファレンス・マニュアルのように、繰り返し参照する文献の場合、この空間的な記憶が少なからずユーザビリティに貢献しているし、小説を読むときには、「本」のもつページの区切りは読者にある種の呼吸を与えるのに役立っている。本の形をした電子ブックは、単に画面を広く取れること以上に、本の持つそうした分かりやすさを取り入れたデザインだと言えるのではないだろうか。シャープが発表したデモ機は、手のひらサイズながら480 x 640のシステム液晶を2面使用した高解像度のもので、「システム液晶」という、駆動回路自体をガラス面上に形成する技術を応用している。
(クワクポリョウタ)



丈夫で薄い 着られるディスプレイ
[有機ELフィルム・ディスプレイ]

メーカー バイオニア
URL www.pioneer.co.jp/crdl/org/display.html

最近よく耳にする有機ELディスプレイは、素材は液晶ディスプレイに比べて応答速度や効率、視認性において優れた特性を持っている。有機ELフィルムディスプレイは有機ELディスプレイを樹脂板上に形成したもので、有機ELそのものの特徴に加えて、軽い・割れない・湾曲できるといったメリットを持っている。有機ELはそれ自体が発光するため、バックライトの必要がなく、わずか0.2mmの超薄型、ドライバICを含めて1gの超軽量が実現されている。携帯電話のディスプレイなど、小型軽量が求められる用途に最適なか、フレキシブル性を活かして衣服などに取り付けることもできる。今後、情報機器のウェアラブル化にかかせないデバイスとなることだろう。
(クワクポリョウタ)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp